育成　あさくち

令和８年１月２０日　No.69
浅口市青少年育成センター
新年号

年頭に当たって

新年、明けましておめでとうございます。
昨年は当センターの活動にご理解とご協力をいただき、深く感謝いたします。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

～馬到成功（ばとうせいこう）～

この四字熟語は中国由来の熟語で、「馬が到着すれば成功が訪れる」という意味で、迅速な成果・目標達成を象徴し、新年の抱負や挑戦を後押しする言葉です。

さて、2026 年の干支は「午（うま）」です。干支の中でも馬は前向きなエネルギー・成功・繁栄のシンボルとして日本人に長く親しまれて来ました。

調べてみると「午年が縁起が良い」と言われる理由が３つあるようです。

その1

馬は本来、常に前進する動物であり、後ろを振り返らずに前へと進むその姿は、夢に向かって突き進む人の象徴です。

新しい年のスタートに「挑戦」「目標」「飛躍」などポジティブなイメージを重ねたい人にとって「午」はまさに理想の干支なのです。

その2

神社に奉納される「絵馬」はもともと馬が神社の使いとされていたことに由来します。願いを馬に乗せて届けるという信仰から始まり、今でも多くの人々が初詣で絵馬を奉納されます。

そのため馬は「願いを届ける存在」「福を運ぶ動物」として特別な意味を持ち、新年に馬をモチーフにしたものを贈ることは、幸運とご縁を届ける行為といえます。

その3

馬は戦国時代、武士にとって勝利をもたらす存在でした。その流れを汲んで、現代でも馬は「出世運」「勝負運」「商売繁盛」の象徴とされます。特に縁起の良い言葉として知られているのが「馬九行久（うまくいく）」これは「物事がすべてうまくいくようにという願いを込めた語呂合わせで、年始の贈り物やビジネスシーンでのご挨拶にも人気です。

そんな縁起の良い年なので、多くの国民がより豊かで幸せな生活を営むことができるような、前向きでエネルギーにあふれる年になって欲しいものです。

浅口市青少年育成センター　一同

『2025年今年の漢字』は「熊」となりました。熊による死者は昨年 11 月 25 日までに 14 人で、統計を開始した 2006 年度以降で過去最多を記録しました。また、環境省によると、昨年４月から 11 月の人的被害が 230 人で、これも過去最多だった 23 年の 219 人を更新しました。

主な原因は、山の食料不足、人里での代替食料の存在、そして、人間活動による生息環境の変化が複雑に絡み合っているためということです。熊に悪気はないので、人間が熊と共存するためには、人間が対策を講じるしかありません。

本年は良い出来事がたくさんあり、明るい漢字が選ばれる年になるといいですね！

青少年健全育成

「今の子どもを育てる」
～知ってほしい理論と方法～

岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY
学術研究院教育学域
講師　伊住　継行
✉t.izumi@okayama-u.ac.jp

昨年１１月２２日（土）に中央公民館に於いて、青少年育成活動協議会が主催する研修会で、岡山大学の伊住先生が標記の演題で講演をされました。この研修会には青少年指導員の方も多数参加され意義ある活動になりました。その内容を簡単にご紹介します。

下の表は少し難しく感じるかも知れませんが、自己を受け入れられた経験を持つ子どもは、「自分は可愛い、守ってもらえる」という自己肯定感を持ち、「育てる人は優しい」という他者信頼感を育み、愛されていると感じることで、育てる者の思いに沿うようになるということです。つまり、しっかり子どもそのものを受け止めることから学びが成立するということにです。

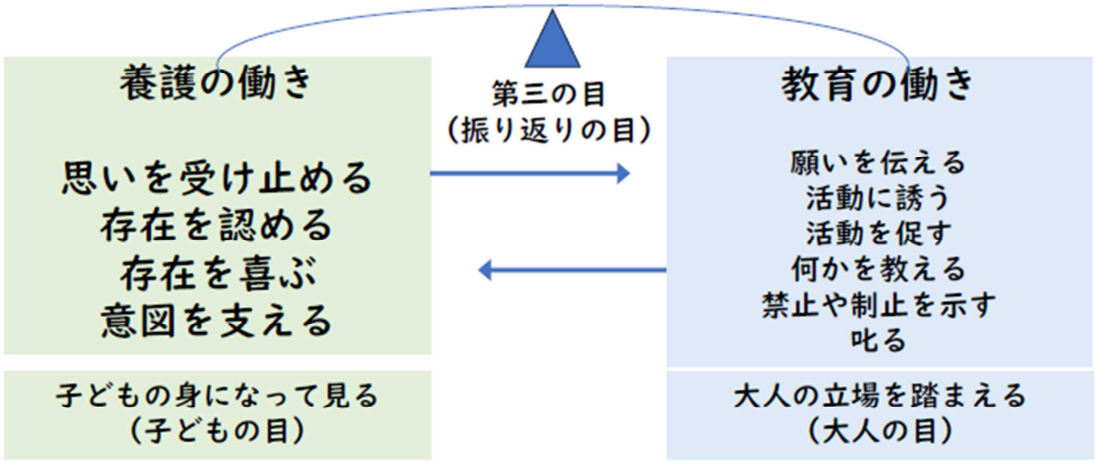
育てるとは

【子供を育てるとは】
子供の内部に「〇〇になりたい」という思いを喚起する際，養護の機能(受け止める)と教育の機能(教える)のバランスを取る必要がある。子供に指示や要求が了解され，それに従って学びが成立するような関係性が成り立つことは当然ではない。
「育てる者(大人・仲間)」と「育てられる者(子供)」の間には，以下のような関係が生じていると考えられ，子供が「育てる者」に同一化(そのようになりたい)する場合は「育てる者」の思いに沿うよう育っていくが，反同一化(そのようにはなりたくない)と思う場合は，「育てる者」の意に沿わない方向へと育っていく。

伊住継行先生

育てるとは　※１

育てる営みは，「養護の働き」と「教育の働き」の二つの機能によって説明される。



※１引用：鯨岡峻「保育の場で子どもの心をどのように育むのかー「接面」での心の動きをエピソードで綴るー」，ミネルヴァ書房，2015，pp.73-76.

そして、まとめの最後には『**大人の役割は「応援」。子どもが抱える理想と現実のギャップや自信の喪失に対し、傾聴・対話を通じて不一致感を改善し、自主的な自己実現を応援することが育てる者の大切な役割**』と結んでいます。